東日本大震災救援ニュース

No.74　2012 年 3 月 15 日

にじのネットワーク
（尼崎医療生協グループ）
対策本部

大震災から１年～3. 10 支援行動報告～

①岡内医師（北野田医療生協）による学習会

②花釜地区の組合員さん宅で

③仮設住宅集会所での健康チェック

④雪の降りしきる仮設住宅

⑤花釜地区の組合員さん宅で集合写真

⑥沿岸部地域での訪問行動

３月１０日。東日本大震災からあと１日で１年となるこの日。宮城県山元町は、季節はずれの大雪に見舞われました。

今回の支援には総勢３０名の参加で、午前中は仮設支援、地域での茶話会、訪問行動の３グループに分かれての活動。午後は、医学生、看護学生は北野田医療生協の岡内医師による学習会を受けていただき、残りのグループで花釜地域を調査訪問しました。

仮設での健康チェック（NPO ふれあいの四季との協同）では、現職の看護師のサポートのもと、医学生と看護学生が初めて計る血圧に四苦八苦しながらも、とても頑張ってくれました。話を引き出していく中で、被災者の方にも笑顔が見られ、とてもいい経験となったのではないかと思います。また、尼崎の介護福祉士の増田さんによる健康体操も非常に盛り上がり、集会所の外にまで笑い声が聞こえるほどでした。

花釜地区の訪問では、お話を聞きにうかがうと「あがってお茶でも飲んでいって」という方が、何人いらっしゃって、たくさんのお話を聞くことができました。今回の訪問でうかがった話をもとに、近畿ブロックでの今後の支援の方向性を検討していきます。

今回の支援で、昨年泥かきに入ったお宅を拠点として使わせていただきました（写真の組合員さん宅）。去年の夏には取り壊そうとしていた家が、今では写真のように住めるような状態にまで持ち直しています。「この家は皆さんのおかげで住めるようになった。今後支援に来る時は是非使って欲しい」という、ありがたい言葉もいただき、４月の支援でも、お宅で炊き出しを予定しています。

地域の状況を見た上で感じたのは、やはり長期に渡る支援が必要とされているということです。震災から１年が経ち、被災された方々は少しずつ前を向き始めています。しかし、まだまだ安心して暮らせるような状況にはなっていません。特に在宅の方々は、たいへんな思いをされています。尼崎医療生協を含めた近畿ブロックでは、今後とも継続した支援を続けていきますので、ご協力お願いします。

（組合員活動部・堤淳一郎）

～ぜひご参加を！4/14（土）、5/12（土）に 保健・医療・介護を中心とした支援活動～

スケジュールとしては、金曜夜に空路で仙台入り、土曜の午前・午後に支援活動、土曜夜には空路で大阪へ戻るもの（往復は飛行機利用）。当面の支援では、健康チェックや健康体操が中心となりますので、**看護師、介護士、理学療法士等の専門職の４名程度を継続して送る予定です。**組合員でこれらの資格をお持ちの方も含めて募集します。お問い合わせは組合員活動部、生協事務局へ。

宮城県角田市産・産直米の販売

今回の原発風評被害で放射能は検知されていないにもかかわらず出荷減少に。
減農薬・有機栽培で生産されたおいしい宮城のお米（ひとめぼれ）です。

3㌔1500 円、5㌔2300 円（カンパ代 300 円込）。500 円が今後も続くボランティア派遣募金として活用されます。詳しくは、組合員活動部（06-4962-4920）まで。